

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

② 施設・事業所情報

名称：にじいろ保育園二子新地	種別：認可保育園	
代表者氏名：大森 忍	定員（利用人数）： 30名	
所在地：〒213-0002 川崎市高津区二子1-17-5		
TEL：044-712-3806	ホームページ： https://www.like-kd.co.jp/academy/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日 2015年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：ライクキッズ株式会社		
職員数	常勤職員： 8名 非常勤職員 4名	
専門職員	（専門職の名称） 名	
	保育士 9名	
	栄養士 2名	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	保育室2 事務兼医務室1 調理室 1 職員休憩室1 幼児トイレ1 誰でもトイレ	全室エアコン設置 保育室全室床 暖房 園内各所に空気清浄機設置 ペーパータオル使用

③理念・基本方針

理念

・のびやかに育てだいの芽（あたたかな環境の中で一人ひとりの心に寄添い人や物・自然との豊かな出会いや体験を通して生きて行く力を育てます。）

保育方針

・みとめ愛・みつめ愛・ひびき愛

（自分らしさを発揮しながら、相手を尊重し、信頼しあい、認め合い自分の事も友達の事も好きといえるこども。いつも見守られ、見つめられている安定した空間の中で、心身ともに健やかなこども。響合い共感し合う喜びを自信につなげ、力強くたくましく生きていけるこども。）

目指す保育園像

- ・陽だまりの様な保育園
- ・地域と共に育つ保育園
- ・子どもと共に輝いていける保育園

（家庭的で「陽だまり」の様な温かな保育園）地域の皆様も気軽に集い、子ども達を中心に保護者・地域・保育園が子育ての楽しさを共に分かりあい、生き生きと輝いていける保育園を目指します。）

めざす子どもの姿

- ・自然を愛し、心身ともに健やかな子ども
- ・自分で考え行動し、意欲と根気のある子ども

- ・「仲間」と関わり、人を思いやれる子ども
- ・自己を表現できる子ども

③ 施設・事業所の特徴的な取組

少人数なので一人ひとりに細かく関わっている。乳児（1・2歳）幼児（3・4・5歳）が同じ部屋にいたので異年齢の交流が自然にできている。言葉は優しい言葉で肯定的な言葉をかけ優しい気持ちを育てている。優しさや思いやりの心は与えられないと出来ないものと思ひそのような気持ちになれる事は率先して行っている。まず子どもの気持ちを受け止め優しさや思いやりの心を育てている。子どもの欠点を見つけるのではなく良い所を見つけ伸ばすようにしている。園児はみんなで保育する気持ちを持って行っている。些細な事も昼礼等で報告し共有している。園行事は出来るだけ全園児で参加できるようにしてる。食育活動に力を入れている。食べる事は生きる源と思ひ「食べたい」と思うように食材を展示すると同時にメニューを書き次の日の給食に繋げている。また、栄養士がおやつレシピを作り、玄関に置き在園児や見学の方に配布しています。季節の野菜をプランターで育て、収穫して給食に取り入れています。既製のおもちゃだけではなく、廃材を利用して工夫してる作っている。作ったものは大事に形が変わるまで使う。子どもの発想を大切にしている。自由に制作できる環境を設定している。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年6月7日（契約日） ～ 2023年12月5日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（令和2年度）

⑥ 総評

◇特長や今後期待される点

特長

園長をはじめ職員は、会社および園の理念・方針・目標などの実現を目指している

定員30名の小規模保育園で、園児は1歳から5歳まで1フロアでほぼ同じ部屋におり、異年齢交流が自然にできている。保育方針として、優しい言葉で肯定的な言葉をかけ、優しい気持ちを育てている。また、優しさや思いやりの心は与えられないとできないものと思ひ、そのような気持ちになれることは率先して行っている。まず、子どもの気持ちを受け止め優しさや思いやりの心を育て、子どもの欠点を見つけるのではなく良いところを見つけ伸ばすようにしている。園児はみんなで保育する気持ちを持って、些細なことも昼礼などで報告し合い共有している。園行事はできるだけ全園児で参加できるようにし、すべての子どもの主体性を重視した保育を実践している。

子どもが主体的に活動し、生活や遊びが豊かになるよう工夫している

園のめざす子どもの姿である「自然を愛し、心身ともに健やかな子ども」のもと、日々の活動は子どもの主体性を大切に保育を行っている。散歩はなるべく子どもの意見を聞いて自然のある場所を選び、子ども同士で遊べるように見守っている。遊びも玩具は子どもが自分で選んで遊べるように配置し、体操やダンスなど好きな曲で身体を動かせるようにしている。また、子どもの発案を大切に、生活発表会では劇や合唱など子どもがやりたいことを取り入れ、日々の活動の延長で一つ上の目標に向かって取り組むなど子ども同士が協同して達成感を感じられるようにしている。

子どもが楽しみながら食への関心を持てるように、献立の工夫や様々な食育活動を行っている

季節感や旬の食材の味を大切に、バランスのとれた食事の提供に努めている。食材の大きさや固さ、調理法や味付けを変えて意欲的に食べられるように工夫している。

また食への関心を高めるため野菜栽培を行っている。職員が子どもとお店屋さんで種を買うところから始めることで野菜の成長に興味を持つことにつなげている。保護者アンケートでも「植物のなにがどこまで育っているか教えてくれる。」などの声がみられた。収穫した野菜は給食室で調理して提供したり、うまく育たなかった野菜もスタンプで製作に使うなど工夫して楽しめるようにしている。

今後期待される点

ボランティアや実習生を受け入れて、より地域貢献に努めていくことが望まれる

「保育ガイド」にはボランティアおよび実習生などの受け入れの基本姿勢を明文化し、その受け入れに関しては本部が統括管理している。園では、担当者を決めて受け入れマニュアルなどを整備して積極的な受け入れを推奨し、いつでも受け入れられるよう体制を整えており、外の掲示板にボランティア受け入れの案内などを掲示している。しかし、現在まで、新型コロナウイルス感染症の影響もありボランティアをはじめ、中学生や高校生の職業体験などの受け入れができず、受け入れ実績がない。ボランティアや実習生の受け入れは地域社会との交流であり、地域貢献の一環でもあり、福祉施設としての役割機能となるものである。今後は指導者研修を受講し、指導者を育ててボランティアや実習生などの受け入れ体制を強化して、その受け入れを実践していく取り組みが期待される。

日々の子どもの保育の様子を伝える工夫が望まれる

子どもの様子は園だよりやクラスだよりなどのお知らせ書類、ナナポケ（保護者アプリ）を活用して保護者に伝え、家庭との情報共有を図っている。一方で、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため送迎時は入口対応となり、保護者が部屋まで入れず、園での子どもたちの姿が見えにくい。保護者アンケートでも「園でどのようなことをしているのか具体的に知ることができず、わかりづらいです。」との声がきかれた。子どもの様子は送迎時に口頭で伝えるようにしているが、さらなる連携や工夫が望まれる。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

保護者アンケートについて、普段から保護者対応については注意を払い接しているつもりでしたが、色々なご意見をいただき、気も引き締まる思いでした。マイナス面だけではなく、プラスの意見もありホッとしたのも事実です。全職員で共有し、改善すべきことは話し合いながら、改善策を見出し、プラス意見は継続できるように精進していきたいと思いました。

自己評価については、前回の評価報告書を参考にしながら、私感が入らないように配慮して記入をいたしました。職員全員で二子新地園をよくしていけるように、ありのままを記したつもりです。子どもファーストを忘れず、監査員の方々のアドバイスを真摯に受け止め、虐待や不適切保育の無い保育園、明るく楽しく元気よく、笑顔の絶えない保育園を目指したいと思えます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり